

慈明院寺報六月号

高野山の大黒天

当院のご本尊である大黒天は

不思議な仏様である。一般的には七福神の神様として、小槌を持つて袋を担ぎ柔軟に微笑んでいる姿が想像されるだろう。しかし、右の大黒天のようにいかめしい顔つきの大黒様もおられる。日本三大黒の筆頭といわれる奈良・松尾寺の大黒天である。



実はこの大黒天、高野山で祀られている最も有名な大黒天のモデルだと伝えられている。その大黒天は弘法大師のおられる奥の院「御供所」というお堂に祀られている。御供所とは午前六時と十時半の一日二回、お大師様のお食事を作る為のお堂である。このお堂の正面に大黒天が安置されている。

この奥の院御供所は、昭和三十七年一月二十七日失火による火災でご本尊の大黒天とお堂が全焼してしまった歴史がある。しかし全国の大黒天信者によりなんと翌年八月には、焼けたお堂が再建されたそうである。あまりの早さにご本尊の大黒天は、後の昭和三十九年によく造立されたそうである。そのモデルとなつたのが前述の奈良・松尾寺の大黒天と云われている。

来る令和六年 六月一日（日曜日）午前十一時より
*おまつりされている大黒天のご尊像をご持参下さい。護摩供養の炎にてお淨め致します。昼食は、お接待お配り致します。参拝の難しい方は大黒様をお迎えに伺います。また郵送して頂いても結構です。どうぞ別紙参照の上ご参拝下さい。



去る四月一日～八日、大師堂に花御堂を据え誕生仏（お釈迦様）を安置して、甘茶をそいで供養する『花まつり』を開催しました。ご参拝頂きました皆様、ありがとうございました。

今年十月に高野山をお詣りする事になった。この奥の院の大黒天にも参拝する予定である。まだ何人かご一緒できるので別紙参照にて。

住職 合掌

先代の明海住職は若き日にこの奥の院御供所に籠り、大黒天を拝んだそうだ。
当院の大黒天は先々代の慈水和尚が、商売をしていた若い頃に祀っていた尊像であるが、先代の明海住職は奥の院で大黒天を拝んで、その仏徳を慈明院の大黒さんに頂こうとしたのだろう。

慈明院（〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一-二〇）
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四